



世界への挑戦

世界へ、2024パリへ向けて、
日体大のアスリート達が挑戦を続けている。
私たちの熱い思いが、感動と平和を世界にもたらず。

特集■学長・副学長・役職者メッセージ——1
特集■世界で活躍する日体大アスリート——9
高橋 藍 (バレーボール)
令和5年度 教員採用試験合格者メッセージ——15
日本体育大学同窓会 Nittai Alumni 紹介——16
令和6年度 入学試験結果/役職者一覧——17
news & topics——19

日体大はスポーツを愛するすべての人々が学ぶことのできる大学 スポーツを軸に人間力を大きく高める4年間を過ごしてほしい

最初に、今年の元日に発生しました能登半島を中心とする地震でお亡くなりになった皆さまに
対してお悔やみ申し上げますとともに、被災さ
れた皆さまにはお見舞いを申し上げます。

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。
また在学生の皆さんは、一つ上の学年へと進
級し先輩としての自覚を新たにしているのではな
いでしょうか。

さて今年はオリンピック・パラリンピックイヤー
です。言うまでもなく、本学に在籍している学
生や本学の卒業生が多く出場することになるで
しょう。前回の東京大会においては約1割の選手
が本学の関係者でした。今回も多くの選手が活
躍することを楽しみに日本選手たちを応援した
いと思います。

ところで、これまで日体大はこうしたアスリー

トはもちろんのこと、体育スポーツの指導者を輩
出する大学として世間からは見られてきました。
しかしながら、現在ではこうした見方は必ずし
も正しいものではありません。例えば、オリ
ンピックに出場するような才能ある選手がいたとし
ましょう。この選手の頑張りは、確かに素晴らし
いものがあるにしても、もしかすると、それ以上
にその選手を支える大勢の人々の力が影響してい
るかもしれないからです。監督、コーチ、トレー

ナーはもちろんのこと、スポーツドクター、栄養
士、アナリスト、スポーツと関わる様々なスタッフ、
スポーツメーカー、さらにはスポーツジャーナリス
ト、そして選手を応援してくれる全ての人々など、
実に多くの方々のサポートや協力があつて、最高の
パフォーマンスを発揮することができているからで
す。

日体大はアスリートや指導者を目指す人たち

だけでなく、サポーターとしての活躍を目指す人
たち、もう少し言い方を変えるなら、スポーツを
愛するすべての人々が学ぶことのできる大学です。
その特徴は、体育やスポーツを通して学問を学び、
また、社会生活や人間関係を学んでいきます。
もちろん体育やスポーツのレベルアップも図るわけ
ですが、最終的には人間力を大きく高めて、社
会に出ていくことのできる大学です。人間が成長
していく中で、大学での生活は大きな意味を持っ
ています。長い人生の中の4年間ではありますが、
大学時代の経験や体験は、間違いない自分自身
の価値観や感性に影響を与えることにもなりま
すし、また、大学時代に築き上げられた友人関
係は一生の宝となっていくからです。そして大学
時代の様々な出会い、その先の人生を方向づけ
ることもつながります。皆さんには、大学生活
の中で、人、知識、モノなど、いろいろな出会い

をしていただきたいと思っています。

●Profile 石井 隆憲(いしい たかのり)

①日本体育大学大学院体育学研究科修士
課程修了(S60.3)／②博士(社会学) 東洋大
学(H10.3)／③NPO法人日本チンロン連盟
代表理事、元日本スポーツ人類学会会長。
ミャンマー・スポーツ省客員研究員(H11.4
～H12.3、H16.4～H17.3)としてミャンマー
に赴き調査活動に携わる。／④剣道部で
したが剣道では芽が出ず、研究の道を志しま
した。そして私自身の生き方を変える「ス
ポーツ人類学」という学問に出会いました。
／⑤ミャンマーの伝統スポーツ、チンロンで
す。リフティングのようにボールを蹴ってパ
フォーマンスを競い合うスポーツです。私は
日本代表の監督も務めており、国内でのさ
らなる普及を目指しています。

最後にありますが、私たち教職員は、学生の
皆さんが「日体大で学んでよかった」と思えるよ
うな環境を提供していきたいと思っています。皆
さんも、楽しく、そして悔いのない大学生活を送っ
てください。私たちは、いつも皆さんを応援して
います。



第13代学長

いしい たかのり
石井 隆憲



副学長(教学・学生生活担当)

やぎさわ まこと
八木沢 誠

新型コロナウイルス感染症が昨年5月に5類感染症に指定されたことにより、私たちの考え方や生活に大きな変化が生まれてきました。そして、やっとコロナ禍からも解放されたと思っていた矢先、能登半島を中心とする北陸地方を巨大地震が襲いました。被害にあわれた皆様、改めまして心よりお見舞い申し上げ、一日も早い復興を切にお祈りするばかりです。

こうした現実を受け止め、私たちの辺りを見回してみると、以前とは異なる社会、すなわち現代はVUCA (Volatility:変動性、Uncertainty:不確実性、Complexity:複雑性、Ambiguity:曖昧性)の時代とも言われ、柔軟性と創造力を持つことが更に求められるようになりました。

私たち日体大においてもこの流れに乗り遅れることなく、スポーツと教育の融合を通じて以下のような取り組みを推し進めることが重要と考えています。

①スポーツ文化の深化と発展、②国際平和の実現、③多様性と包摂の促進、④研究と社会貢献、⑤アスリートの育成と支援、⑥地域社会への貢献などです。

本学がこれらの使命を達成するためには、教職員だけではなく、学生の皆さんにも理解と協力をしてもらわなければなりません。“この大学が何をしてくれるのか”を期待するのではなく、“この大学で何ができるのか”というポジティブな思考で私たちとともにこの大学を推し進める力になっていただくことを期待しています。

●Profile 八木沢 誠(やぎさわ まこと)

①日本体育大学大学院体育科学研究科(H2.3)／②修士(体育学)／③日本体育・スポーツ・健康学会、日本武道学会、スポーツ史学会、日本応用心理学会、日本運動・スポーツ科学学会、(一財)全日本学校剣道連盟常任理事、関東学生剣道連盟常任幹事、剣道教士八段／④大学入学と同時に剣道部に入学しました。当時は230名を超える部員がおり、秋田から出てきた田舎侍はその多さに面食らっていました。同じ釜の飯を食った先輩・同級生・後輩たちとの縁はかけがえのない大切な財産となりました。／⑤掃除と園芸。最近は季節ごとに咲く花を育てることが楽しみです。草花の生命力に驚き、力をもらっています。



副学長(企画・管理・運営担当) 兼学友会長

みずの ますひこ
水野 増彦

今年は、4年に一度の世界最高峰のスポーツ祭典、パリオリンピック・パラリンピック競技大会が開催されます。どんな感動のドラマと出会えるか、その瞬間が今か今かと待たれます。そんな中で私は、副学長職と学友会長職を拝命してそれぞれ4年目、2年目を迎えますが、さらに学長を支えて職責を全うしていく所存です。

さて、本学は 体育・スポーツの伝統校である同時に体育・スポーツ系では唯一の総合大学です。その本学を取り巻く今日の社会環境は少子・高齢化の進展、人生100年時代の健康問題、AIとロボット、ビッグデータを活用した著しい技術革新がスポーツ界と教育の現場にも大きな変化を与えてきています。本学はこうした変化をチャンスと捉え、持続可能な発展に繋げていく更なる改革に取り組んでいるところです。

保健体育教員と健康・スポーツ指導者の育成に留まらず、実業家を目指す起業力を養うアントレプレナーシップ教育もこれからの日体大の教育に不可欠です。さらに、地方自治体と連携を密にして地域社会の健康とスポーツ振興の支援・助成を通しながら新たな産業や雇用の創出に繋げていきたいと思っています。

学生の皆さん!今、社会は日体大に学び、「日体魂」(日体スピリット)を宿した人材を求めています。そのキーワードは日体大が培い継承してきた文化の中に生き続けています。探してみてください。

「エッサッサ」の“磨一糾”の精神はその一つです。

●Profile 水野 増彦(みずの ますひこ)

①日本体育大学体育学部体育学科(S58.3)／②体育学士／③日本体育学会、日本コーチング学会、日本陸上競技連盟強化委員(障害部長) 歴任、関東学生陸上競技連盟理事、文部科学大臣賞(H13/H15)、日本学生陸上競技連盟指導者功労賞(S63)、関東学生陸上競技連盟指導者功労賞(S63/H13/H15)／④当時の陸上競技部員は800名を超える大所帯でありました。仲間と共に励んだ日々は今でも忘れることはありません。大学で培った様々なことは自分が成長していく上でとても役に立っています。特に仲間は全国各地にいて私の財産でもあります。／⑤地域貢献事業として地域の子供たちに陸上教室(正しい走り方等)を楽し行っています。また、観葉植物や花を育てながら成長を見守るのも楽しみです。



体育学部 健康学科 学科長

よこやま じゅんいち
横山 順一

◆日体生に望むこと：大学での4年間は、あっという間に過ぎていきます。自分自身の未来を切り拓いていくための貴重な時間でもありますので、さまざまなことにチャレンジしながら有意義な学生生活を送ってもらいたいと思います。大学生としての自覚も持ち、年齢相応の言動や所作を身につけるとともに、国内外の社会情勢をしっかりと捉えながら積極的に自分の将来について考える機会を得ましょう。日体大には皆さんの学生生活を充実させるための環境が整っていますので、積極的に活用してください。

●Profile 横山 順一(よこやまじゅんいち)

①日本体育大学体育学部(S61.3)／弘前大学大学院医学研究科(R3.3)／②博士(医学)／③日本老年社会学会、日本応用老年学会、体力・栄養・免疫学会、日本社会福祉学会、日本在宅ケア学会、せたがや福祉区民学会(理事)／④陸上競技部の中距離ブロックに所属。4年間の様々な経験が社会人になってから大いに役立ちました。／⑤陸上競技部での活動の傍ら、研究テーマとしている「健康寿命の延伸」を自ら実践するために、ゴルフ・釣り・料理などの趣味を通して仲間たちと一緒に楽しんでいます。



体育学部 体育学科 学科長

おおもと ようじ
大本 洋嗣

◆日体生に望むこと：4年間は瞬く間に過ぎてしまいます。充実した学生生活を送るためには時間の使い方が重要です。体育学科はスポーツ、健康のスペシャリストを目指すために、自らの目標に向かって挑戦できる場所です。授業はもちろんのこと、クラブなどにも積極的に参加し多くの経験を重ねてください。卒業する時に素晴らしい4年間で過ごしたと思うかどうかは皆さんの日々の行動にかかっています。頑張ってください。

●Profile 大本 洋嗣(おおもとようじ)

①日本体育大学大学院体育学研究科(H5.3)／②修士(体育学)／③日本水泳連盟水球委員会テクニカルディレクター、JOCナショナルヘッドコーチ、JOC強化スタッフ、リオ五輪、東京五輪水球男子日本代表監督／④水泳部水球ブロックに所属し1年時より日本代表に選ばれ競技漬けの日々でした。／⑤学生時代から数えきれないほど海外に遠征しているので、競技だけではなくその土地の文化や食事に触れ合うことが楽しみです。



体育学部 学部長

のい しんご
野井 真吾

◆日体生に望むこと：Society 5.0(超スマート社会)とされる社会では、いまほど身体活動が必要なくなってしまうかもしれません。ただ、ヒトは動物です。動かなければヒトにも人間にもなりません。また、ヒトは人間でもあります。人間は家族や仲間と群れながら進化してきました。そう考えると、動くこと、群れることを制限してしまうような時代にこそ、体育・スポーツ・身体活動への期待はますます大きくなると思います。そのような社会的要請に応えられる日体生になってください。

●Profile 野井 真吾(のいしんご)

①日本体育大学体育学部(H3.3)／日本体育大学体育科学研究科(H14.3)／②博士(体育科学)／③日本体育・スポーツ・健康学会、日本学校保健学会(代議員)、日本教育保健学会(常任理事)、日本幼少児健康教育学会(副理事長)、子どものからだと心・連絡会議(議長)等／④学生時代は学友会サッカー部に所属し、練習がある日もない日も、四六時中サッカー部の友だちと一緒にいました。自慢できるような競技実績は何一つ残せなかったものの、かけがえのない思い出になっています。／⑤日ごろは、子どもの“からだ”にこだわった研究活動に従事しています。そのため、子どもの“からだ”については、おおよそどんなことにも興味があります。

学生生活を充実させよう

4年間の日々の行動を大切に

スポーツへの期待に応える人材に



スポーツ文化学部
スポーツ国際学科 学科長

やまぐち かずゆき

山口 和之

◆日体生に望むこと：日本の大学は国内だけではなく世界に目を向ける必要がこれまで以上にあります。国内基準と共にグローバルスタンダードを視野に入れながら行動する必要があり、その際コミュニケーション手段として必要な外国語、多くの場合は英語を習得することが必要になります。ただし、外国語以上に日本語をしっかり身に付けることを忘れずに生活してください。日本語の力を高め、豊かな教養を身に付けることを常に意識してください。

●Profile 山口和之(やまぐちかずゆき)

①明治学院大学文学部英文学科(H4.3)／ニューメキシコ大学大学院言語学科博士課程(H17.5)／②博士(言語学)／③シルフェ会、日本言語学会、日本認知言語学会、日本語学会、JACET、GEN TEFL／④洋画好きの父の影響から外国語に興味を抱きました。そのため?大学では英語学を、米国の大学院では言語学を研究。／⑤外国語学習、映画鑑賞、散歩など。



スポーツ文化学部
武道教育学科 学科長

やまもと ようすけ

山本 洋祐

◆日体生に望むこと：柔道の創始者嘉納師範は、精力善用、相助相讓、自他共栄を教育の柱に掲げ、目標達成に向けて心身の力を有効に活用し、努力する。その過程で生じる対立や衝突を避け、他者を尊重し、譲る心を持つことが共に繁栄する道であると説かれています。武道教育学科の学びを通して自分を奮い立たせる強い精神力、想定外の状況に対応出来る判断力等、社会で生き抜く力が身につくように日々精進してください。

●Profile 山本 洋祐(やまもとようすけ)

①日本体育大学体育学部武道学科卒業(S57.3)／②弘前大学 博士(医学)／③全日本柔道連盟男子強化委員(H28.4～現在に至る)、ソウルオリンピック65kg銅メダル(S63.9)／④4年間合宿所で寝食を共にした同級生は、一生の宝である。40年以上、時は経つが変わらぬ関係である。／⑤ゴルフ



スポーツ文化学部 学部長

おかで よしのり

岡出 美則

◆日体生に望むこと：スポーツを通していろいろな世界が見えてきます。スポーツに親しんでいるといろいろな人と仲良くなれます。言葉ができると、その可能性は一層広がります。世界は、多言語で、スポーツの価値の実現を通して世界を変える人を求めています。学部での学習を通して新たな自分を見つけ、新たな課題に挑戦する人材に育つことを期待しています。

●Profile 岡出 美則(おかでよしのり)

①奈良教育大学教育学部小学校教員養成課程(S55.3)／筑波大学大学院修士課程体育研究科体育方法学専攻(S57.3)／②博士(教育学)／③日本体育学会、日本スポーツ教育学会、日本体育学会、日本教科教育学会／④三重県生まれ、大阪、奈良、愛知、茨城、東京、少しドイツ。いろんな所で生活しています。／⑤人に会うことが好きです。人が喜ぶ顔が好きです。言葉を学習することも好きです。

学科の学びを通して日々精進を

スポーツを通じて世界を変える人材に



スポーツマネジメント学部
スポーツライフマネジメント学科 学科長

こいずみ かずし
小泉 和史

◆日体生に望むこと：生命尊厳をテーマにいかなる事態においても人間愛に基づき、限りある生命をいかに充実させるかが最重要です。そのためには、何事も妥協することなく追及してほしいと思います。日体生の活力あるパワーがあれば、何でも取り組むことができます。その際は、「自己管理」、「バディ愛」、「チーム愛」、「日体愛」を理解したうえで、行動してほしいものです。日体生全員の飛躍と活躍を期待するとともに応援しています。

●Profile 小泉 和史(こいずみ かずし)

①日本体育大学体育学部(H1.3)／日本体育大学体育専攻科(H2.3)／日本体育大学大学院体育科学研究科(H16.3)／東京海洋大学大学院海洋科学技術研究科(R2.9)／②博士(海洋科学)／③日本水中スポーツ連盟(副会長)、日本海洋人間学会(理事)、日本野外教育学会、日本水中スポーツ学会、日本体育・スポーツ・健康学会など／④ゼミナール活動(海洋ゼミ・アクアスポーツゼミ)において、スクーバダイビングを主としてサイパン、沖縄、伊豆、八丈島など先輩や同期の仲間と共に楽しんでいました。／⑤国内、海外を問わず、海、河川、湖沼の自然環境や温泉、飲料水などの「水」全般に関することに興味があります。



スポーツマネジメント学部
スポーツマネジメント学科 学科長

あおやなぎ とおる
青柳 徹

◆日体生に望むこと：物質的な豊かさと高度情報社会である現代は、正誤の自己判断を曖昧に、すぐに役立つ情報へ安易に飛びつき、効率の良さばかりを求める傾向にあります。よって、深く物事を精査する思考力は敬遠され、人間の思考を停止させているように感じます。「マネジメント」というキーワードを基に、私たちが仕事や大学で求められる役割、そして生きる意味や意義について、答えが出ないことや失敗を恐れず、一緒に深く考え悩み抜きましょう。

●Profile 青柳 徹(あおやなぎ とおる)

①日本体育大学体育学部(H3.3)／筑波大学大学院修士課程体育研究科コーチ学専攻修了(H15.7)／②修士(体育学)／③日本氷上スポーツ学会(理事)、日本学生氷上競技連盟(副会長)、日本スケート連盟ナショナルコーチ、文部科学省スポーツ功労者顕彰(H17/H26)、文部科学省国際競技大会優秀者等表彰(R5)／④辛いことも笑いに変えて、苦楽を共有したスケート部の同期と過ごしたことの全てが思い出であり、人生の財産となっています。そして今も一生涯の友です。／⑤将棋観戦です。特に対局後の感想戦を見聞きしている時間はプロ棋士の思考に触れることのできる貴重なときです。また、最近は時間の許す限りサウナに入っています。



スポーツマネジメント学部 学部長

さいとう たかし
齊藤 隆志

◆日体生に望むこと：AIが人類の知能を超える日は近いと言われていきます。わからないことはスマホに尋ねれば何でも答えてくれます。しかし実社会での体験、それに伴うワクワクする気持ちや苦労した思い出などをAIは教えてくれません。ぜひスポーツ指導、ボランティアやマネジメントなどのいろいろな経験のために現場に出てみましょう。学生時代の現場経験はAIでもかなわない皆さんの本当の力となるはずです。

●Profile 齊藤 隆志(さいとう たかし)

①筑波大学体育専門学群(S63.3)／筑波大学大学院修士課程体育研究科(H2.3)／②体育学修士／③日本体育・スポーツ・健康学会、日本体育・スポーツ経営学会、日本スポーツ産業学会、日本体育・スポーツ政策学会、日本スポーツ協会総合企画委員会／④陸上競技部に所属し、2・3年生時に2年間ブロック長として部員をまとめ練習メニューを企画・立案していました。チーム成果を出すために創意工夫する貴重な経験ができました。／⑤アニメやコミックが趣味です。最近では「THE FIRST SLAM DUNK」を映画館で鑑賞して大変感動しました。わたしは仙道君のファンです。

限りある生命を充実させてほしい

失敗して悩み抜くからこそ成長できる

経験を積むため現場に出てみよう

次
な
る
高
み
へ



児童スポーツ教育学部
児童スポーツ教育学科 学科長

なかじま りゅういち

中島 龍一

◆日体生に望むこと：日体大生には「目標を定めたらそれに向かって調整しつつ成し遂げる力がある」ことを、授業や様々な活動を通して強く感じています。これはスポーツを通して培った力でもあるのかなと思います。また大切な生活基盤要素である「明るく元気」なことも、日体生の素晴らしい力です。この『日体力』を学生生活の中で熟成させ、人を思いやる優しい気持ちを大切に、将来、社会でリーダーシップをとれる人間に成長して欲しいと思っています。

●Profile 中島 龍一(なかじまりゅういち)

①武蔵野音楽大学音楽学部器楽学科ピアノ専攻(S61.3)／武蔵野音楽大学大学院音楽研究科ピアノ専攻(H1.3)／②芸術学修士／③全国大学音楽教育学会(理事)、日本音楽教育学会、日本童謡協会(作曲会員)／④「練習がレッスンの記録の日々でした。ピアノも結構体育会系寄りなんです!(笑)そんな中でも学生生活はエンジョイしていました。現在も毎日指の筋力を鍛え、練習に励んでいます!／⑤29年間日記をつけています。スポーツ観戦が好きです。特に高校野球!ガムシャラで真っ直ぐなプレーにパワーをもらっています。特技は、即寝でパッと起きられること。



児童スポーツ教育学部 学部長

すなが みかこ

須永 美歌子

◆日体生に望むこと：日体大生は、真面目で純粋、そしてひたむきに努力する才能に優れています。その才能はスポーツだけでなく、様々なところで活かすことができるでしょう。大学生時代の過ごし方は、その後の社会人生活にも影響を与えます。多様な人と交流し、積極的に学び、考え、視野を広げていただきたいです。自分の可能性を信じ、高い志をもって色々なことにチャレンジしていただきたいです。

●Profile 須永 美歌子(すなが みかこ)

①日本体育大学大学院体育科学研究科(H10.3)／②博士(医学)／③日本体力医学会(理事)、日本トレーニング科学会(会長)、日本オリンピック委員会強化スタッフ、日本陸上競技連盟科学委員会委員／④陸上競技部に所属し、合宿所生活を送っていました。一方で、大学院生の実験を手伝うなど、研究活動にも取り組んでいました。部活動・ゼミ活動の両方ともすごく楽しく充実した毎日でした。／⑤これといった趣味はありませんが、人と話をすることが好きです。様々な事柄に対する考えを聞くと、多くのことに気づかされます。学生さんともたくさんお話しする機会を作りたいです。

リーダーシップを取れる人間に

自分を信じて様々なチャレンジを



保健医療学部 救急医療学科 学科長

お が わ さ と お
小川 理郎

◆日体生に望むこと：常に社会的な礼儀と自分の支持者からの感謝の気持ちを決して忘れずに、スポーツと勉強の両立を望みます。教員と自分を信頼して前を向いて自己成長のために学業・実習・諸活動に取り組んで下さい。救急救命士は人の命とその家族を救い、社会で困窮した人のために、利他の精神を持って働く素晴らしい職種です。危急の人々を救えば、永遠に消失しない誇らしい満足感が待っています。救急医療の知識は生涯にわたって使えます。

●Profile 小川 理郎(おがわさとお)

①日本医科大学大学院医学研究科／②医学博士／③日本医科大学関連施設で救急医療災害医療などに従事。専門分野は病院前医療(EMS)、重症多発外傷と多臓器障害(重篤病態)の診療と治療、救急災害医学教育、研究分野は心肺脳蘇生と脳循環代謝。日本外科学会 日本救急医学会 指導医・専門医 評議員 など／④大学時代は苦学生ですべてに必死の毎日でした。母や多くの方々の愛情に恵まれて真に人に優しくなれました。／⑤スポーツ・音楽鑑賞。熱烈巨人ファン。星を観る大の宇宙好き、海好きscuba diving、動物と魚の餌やり。医師になって以来趣味の時間がつぶれて、日々の診療での勉強と研究、教育指導が趣味に。

救急救命士の為に真の教育を追求



保健医療学部 整復医療学科 学科長

く ぼ や ま か ず ひ こ
久保山 和彦

◆日体生に望むこと：「柔道整復術」は、柔術家が用いていた「活法・接骨術」が起源となる医術です。大正期において接骨術は活法から分岐して「柔道整復術」となりました。日体生の皆さん、身体活動や競技を通じて得た「実践的知識」を基に、柔道整復の知識を重ね合わせて、国内外の体育・健康・医療・福祉などの分野に向けて、これまでにない新たな風を吹き込むことができるように挑戦してください。

●Profile 久保山 和彦(くぼやまかずひこ)

①日本体育大学体育学部武道学科(S61.3)／日体柔整専門学校/放送大学大学院文化科学研究科／②修士(学術)／博士(体育科学)／③日本体育スポーツ健康学会、日本運動スポーツ科学会、日本武道学会、日本柔道整復接骨医学会、日本医学教育学会、日本疫学会、日本体力医学会、日本登山医学会／④昼は日体大柔道部で柔道を学び、夜は(現)日体医療専門学校で柔道整復術を学びました。日々「殺法・活法」の修得に没頭しました。／⑤古今東西の「人間」に関わる社会・文化情報を把握することで「日本人とは、」を問うております。常に体験を先行させた「実践知」を集積しています。

体育・健康・医療・福祉に新風を



保健医療学部 学部長

な か ざ と こ う い ち
中里 浩一

◆日体生に望むこと：体育・スポーツ界を中心に華々しい成果に彩られた長い歴史を持つ日体大ですが、その栄光を作ってきたのは学生の皆さんひとりひとりです。そして日体大の更なる輝きに火をともしのは在学生、そして新入生の皆さんに他なりません。他大学の追従を許さない日本一の環境はそれぞれの夢に向かって挑戦するにはうってつけです。卒業時に大きな成長、かけがえのない友、ゆるぎない学力が得られ「最高の学生生活だった」と思えるような環境づくりを心がけていきたいと思います。

●Profile 中里 浩一(なかざとこういち)

①東京大学教養学部基礎科学科第一(H4.3)／東京大学大学院総合文化研究科(H10.3)／②博士(学術)／③日本体力医学会(理事)、日本運動生理学会(理事)／④学部時代は友人と車中泊をしながら北海道旅行をしたりオートバイで日本中をツーリングしたりしたのがいい思い出です。大学院以降の思い出は全て研究活動、とりわけ指導教員の先生をはじめとする研究室の皆様との昼夜を問わないディスカッションです。／⑤魚釣りや答えるようにしています。

力を合わせ日体大に更なる輝きを

日体大を 極める Episode 13

図書館を活用しよう

日本体育大学は「身体に纏わる文化と科学の総合大学」を標榜している。スポーツを軸に多様なアプローチが可能であることが本学における教育・研究の大きな魅力の一つである。

体育スポーツの領域は、体育理論や体育学、スポーツ医学や運動生理学にとどまらず、哲学、心理学、歴史学、社会学、民俗学など、人文科学・社会科学・自然科学を横断し、学際的に展開する。つまり、興味関心の対象は無限に広がっている。

そのような知的好奇心に応えてくれるのが図書館だ。本学の図書館は、体育スポーツ関連の専門書は日本屈指の蔵書数を誇り、学外からの利用者も多い。「日本体育大学図書館資料収集、保存・除籍の基本方針」にも、「体育・スポーツ分野の特色ある専門的蔵書群が、大学図書館として社会的に高評価を受けていることから、体育・スポーツ分野資料については、媒体に関わらず網羅的に収集する」と収集の基本方針が掲げられている。

本学には、世田谷本館（東京・世田谷キャンパス）、健志台分館、保健医療学部図書館（横浜・健志台キャンパス）の3館がある。世田谷本館と健志台分館は、学友会活動を考慮し、授業期間を中心に平日22時まで利用できるのも嬉しい。気軽に立ち寄り、スポーツ選手のライフヒストリーを読んだり、スポーツ動画を視聴したり、あるいは生き方に影響を与えるような文学書を手にとって読んでみたりするのも楽しいだろう。

競技者、教員、ビジネスパーソン、医療従事者を問わず、愛読書の一冊ぐらいは挙げられるような社会人になることができれば頼もしい。さあ、図書館に足を運んでみよう。



大学院研究科長代表

せきね まさみ
関根 正美

◆日体生に望むこと：真理を探究することは人間に与えられた大きな希望の一つです。大学の学部・大学院で競技生活、授業、日々の勉強の中で体育・スポーツ（とは限りませんが）の「謎」に出会ったら真理探究のスタートラインに立っています。それは教員・学生、上級生・下級生関係なく誰にでも平等に訪れます。体育・スポーツ・健康の世界は未だ謎だらけで、それらは私たちによって解明されるのを待っています。この大学で、日体生の皆さんが謎に出会えますように。

●Profile 関根 正美（せきね まさみ）

①早稲田大学第二文学部西洋文化専修（563）／筑波大学大学院体育科学研究科体育科学専攻（H8）／②博士（体育科学）／③日本体育・スポーツ・健康学会（理事）体育哲学専門領域（副代表）、日本体育・スポーツ哲学会（会長）、日本ヤスパース協会（理事）、International Association for the Philosophy of Sport／④他大学でしたが卓球部に所属し練習の毎日でした。4年生の春リーグで4季連続最下位を脱した時と4年秋で全日本の予選を初めて通過した時の嬉しさは今でも忘れません。／⑤旅行などで訪れた街の本屋に入り、記念に何か1冊買うことを楽しみにしています。日本語の本でも外国語の本でも、ページをめくっていると街の記憶が甦ってきます。

真理探究のスタートラインに

メダル獲得をめざす 夢のあるスポーツに



高橋 藍

男子バレーボール
イタリア・セリエA ヴェロ・バレー・モンツァ所属

パリオリンピックでの そしてバレーボールを

日体大への入学直前に日本代表入りし、翌年に開かれた東京2020オリンピックでは、チーム内最年少メンバーとしてベスト8に貢献した高橋藍選手。しかしその年末、国外のチームと契約を交わし、海外で活動する道を選ぶ。前例のないその選択だったが、大学やバレーボール部はそのチャレンジの背中を押した。今年、開催が迫るパリ2024オリンピック。高橋選手は今、何を思い、世界の中でどう戦っているのか？その胸の内を聞いてみた。

兄の影響で始めたバレーボール 東京2020オリンピックに出場して

・バレーボールを始めたきっかけ

小学2年生の頃、兄が先にバレーボールを始めていました。練習試合だったと思いますが、たまたまメンバーがいない時、代わりに出場したのがきっかけでした。そこから、遊びながら兄について行くという形でバレーボールを始めました。

・中学校と高校時代を振り返って

高校バレーは、とにかくしんどかったです。練習はもちろん、普段の生活も、非常にきつかったと思います。様々な重圧を抱えながら朝から夜まで練習して、リラクセスする時間もあまりなかったと思うくらい、ずっとバレーボールとともに生活していたと思います。

・初めて日本代表に選ばれた時の心境

初めて日本代表の登録メンバーに選出されたのが高校生の最後でした。もう春高バレーも終わった、2月頃に連絡がきました。当時日本代表の中垣内祐一監督から、もっと上を目指して頑張れという言葉を送って、代表への意識が強くなりました。ただ選ばれた時は正直、やっていけるのかな、自分の実力がそこに達しているのかなという、不安があったことを覚えています。

・東京2020に対する意識

小学6年生の頃、ちょうど7年後に東京で開催されることが決まり、卒業文集に「東京オリンピックに出る」と書きました。年齢は19歳で厳しいかもしれないけれど、東京オリンピックに出たいという気持ちが芽生えました。高校生の時に、日本代表に選ばれたい、選ばれるかなという思いや期待が高まりました。東京2020を現実的に意識したのは、やはり日本代表登録メンバーに実際に選ばれてからです。

・東京オリンピックの感想

1年の延期は自分にとって、プラスに働きました。1年でかなり大きく成長できましたし、さらに力をつけられると前向きにとらえました。チーム内では最年少でしたが、とにかく自分自身が遠慮しないということを心がけました。その時すでに自信があったかと言われると、そうではありません。でも、その中で自分ができるプレーを最大限に出して行くことを一番に意識してやっていました。それが監督にも期待されていることだったと思います。当時の能力でいくと、80パーセントぐらいは出せたのではないかと思います。





・日体大に進学した理由

進路選択が高校2年生の時期で、その頃に大学から声をかけてもらいました。大学を飛ばしてプロやVリーグに行くという考えは、その時はあまりなく、大学を挟むというのが当時の考えでした。自分の中ではもちろん兄がいる大学について行く選択肢もあったのですが、ずっと兄を追いかけてきた中で、次は相手として対戦したいという思いも強くありました。自分は環境がとても大事だと思っていて、自分自身を追いつめる環境に入っていきたいと思いました。その中で1番だったのが、日本体育大学です。自分が求めている環境、もちろん厳しさもありますが、授業からも自分自身の競技に繋がっていると思えましたし、環境にこだわった中で、日体大を最終的に選びました。

・部活動の思い出

寮がすごく楽しかったのを、今でも覚えてます。4年生、3年生、2年生、1年生という部屋割りでしたが、昔の上下関係とか、理不尽に厳しいということもなく、部屋会という、4年生が食事を用意してパーティーをすることもありました。僕は、よくチャーハンを作っていましたね。今でも同期と連絡を取りますが、寮ですと毎日一緒にいるので、それが本当に絆というか、深い仲だなというのは今でもあります。

日体大のバレーボール部で1番印象に残っているのは、2年生の秋リーグでの優勝です。自分自身は夏の間、日本代表で活動していたので、チームでの練習ができない状況でした。その中で、帰ってきてからすぐの試合だったのですが、チームが自分が帰ってくるという前提で作られていました。決勝の早稲田戦では、相手に同じ代表の大塚達宣選手がいて、その試合を勝って優勝したことが、とても印象に残っています。

・日体大に進学してよかったこと

大学生になると、いろいろな経験ができたし、友達がたくさん増えたりというイメージを持っていました。でも、コ罗纳禍のためなかなかそのようにはいかず、他の競技の選手と出会えたりとかもなく……。最初はオンライン授業で、1年生の頃は実技もレポートでやるという感じでした。他のスポーツを考えながら文章にすることは初めての経験でした。この動きがバレーにも繋がるのではないかとイメージを膨らませることは、すごく興味を持って取り組みましたね。

・兄である墨選手との対戦

インカレ準決勝で対戦し勝利することができました。兄（高橋墨選手）と本気で勝負したのは、その試合が初めてです。

男子バレーボール部には感謝の気持ちしかない

ずっと同じチームで同じ高校に在籍していたので、それ以外では公式戦で対戦したことはないです。貴重な経験ができました。

・もしバレーボール部に入っていなかったら

普通の大学生活というか、学校に行っただけを受けて、昼は食堂に行ってご飯を食べる友達がいって、サークルに入ったりとか、そういう生活をしてみたいという気持ちはすごくありますね。体は動かした



と思うので、普通にフットサルなどの室内競技をやっていたのではないかと思います。

・高橋墨選手にとってバレーボールとは

夢を与えてくれるものだと思います。次から次へと、バレーボールが自分の夢を広げてくれる。自分自身を作っていくのも、自分自身を強くするところも、本当に自分を成長させてくれたり、夢その

ものだと思います。

・バレーボール部のメンバーに一言

まずは感謝の言葉が1番に出て来ます。自分がやりたいと思ったこと（海外での活動）に対して、同期は理解してくれ、やりたいようにやればいいし、応援していると伝えてくれました。みんな一緒に戦いたいという思いがあることは自分も同じでした。本当にいい同期の仲間、バレーボール部に恵まれました。山本健之先生にも背中を押していただきました。最後のインカレは自分も悩みましたが、その中でも、山本先生が自分の決断を尊重してくれなかったら、今の自分はありません。本当に無理を言ってくれて、自分の私が今まで海外への挑戦が始まりましたが、大学の方々にいろいろなサポートしていただきました。本当にありがとございませうという、感謝の気持ちがあります。

・日体大生へのメッセージ

やりたいと思ったことは、すぐにでも、それに向かってやるのが1番なのかなと思います。やりたいけれどどうしようかなって迷っているんだったら、それはやるべきです。いろいろなことを経験して、自分がやりたいことを見つけていくのが、若いうちに行けることなのではないかと思っています。



<プロフィール>

・自分の性格を簡潔にあらわすと
負けず嫌いです。

・オフの過ごし方(趣味)

今はアニメをめっちゃめっちゃ見ますね。
ハイキューとワンピースが好きです。

・試合(前または後)でのルーティーン

最近はルーティーンを作らないようにしています。
僕はどちらかというとルーティーンを決める方がストレスになるので、それが嫌でルーティーンを作らないようにしています。

・尊敬する選手

バレーボールで言うと、日本の選手では石川祐希選手が1番尊敬できる選手です。他にアメリカのアンダーソン選手がずっと好きでした。後は、大谷翔平選手です。

・好きな言葉

ブリズンブレイクで主人公が残す「勇気と信念が世界を変える」という言葉が、自分にも当てはまるかなと思っています。イタリアに行く時も勇気を出しましたし、その環境が自分に合っているのか、その環境で強くなれるのか、正直そこは信じるしかなかったのですが、本当に「勇気と信念が世界を変える」という言葉が好きです。

自分のパフォーマンスを
最大限に発揮することを追求する



・海外（イタリア）でプレーすることを決めた理由

大学生で海外でプレーするのは、石川祐希選手が大学在学中にイタリアに行った時も、インカレやリーグ戦は出て、短期間だけ向こうに行くというスタイルでした。完全にチームと契約をして、1年間海外で活動するというのは、前例がなかったと思います。それを意識し始めたのは、東京オリンピックが終わってすぐです。次のオリンピックに向けて、海外との力の差を埋め、海外の選手とプレイする経験を積んでいきたい。東京オリンピックで負けた時に、そう強く思いました。それで、石川選手に真っ先に相談しました。海外のことが分からないので、海外のリーグどうなんですか？という雰囲気ですか？とか、いろいろな質問をしていました。石川選手も経験するのは良いと言ってくれたので、まずは経験しなければいけないという思いがその時にはありました。

自信はあるようではなかったです。でも、まずは経験したいという思いがあったので、楽しみではありました。チャンスが来た時、必ず掴み取ろうという思いでした。最初は12月、リーグの途中からのチームへの合流でした。そこでしっかりとした結果を出すことで、チャンスをものにしようという思いはありました。

・活動の様子と感想

大部分もあります。そのため最後の2戦、リベロをやらないかと言われた時は、正直リベロか…という悔しさがありました。でも海外に来てリベロになることもチャンスだと思い、気持ちをポジティブに切り替えました。自分でもレシーブ力を磨く必要を感じていたので、与えられた責任を果たしたいと考えようになりました。自分はプロとしてバレーボールに人生をかけていきたいという思いがその時に芽生えたのを覚えています。自分が最も成長するためにシーズ



©Vero Vally Monza

・メンタル面での変化

とにかくメンタルを強くする必要性を実感しました。ワンシーズン目にプレーする中で、誰だこの選手？みたいな感覚で、海外の選手から見られるのです。言い方は悪いですが、なめられるというか、評価を下に見られる感じがすごくありました。自分の中では、そうやって見てくる人たちには、プレイで黙らせるしかない

いう気持ちがありました。自分自身の強みやプレイの質で勝負していかないといけない。それには、まずは自信を持つことで、海外の選手に負けずに戦っていけると、意識が大きく変わりました。

・自分を保つ方法

自分の中で、あまり考えすぎないようにしています。イタリアに来るまでは、自分は結構考えるタイプでした。どうしたらこれ乗り越えられるかなどよく考えていました。しかし、乗り越えるためには試合で結果を出すしかない。そこで、自分の中で考えることをやめました。試合の中で乗り越えていく。今置かれている苦しい状況も、その先に強い自分がいるというマインドに変えてやるようになりました。

・海外生活のオフの過ごし方

今シーズンは中々オフがなくて、少しオフがあった日でも、どこか外に出かけたりはしませんでした。基本はストレスをためないように、少し気分転換をしながら、何もせず、ゆっくり過ごすという感じでした。

・競技における今後の課題

まずは、1つ1つの能力を上げて行くこと。そして、本当にしんどい状況や競った場面、いかに自分自身のプレイのクオリティを高く保ちながら出せるかです。そこに一番関係しているのは、正直メンタルだと思います。厳しい状況の中でも、自分自身の最大限のパフォーマンスを出すには、メンタルを安定させること。メンタルを強く持ち、試合の中で出てくるシチュ

エーションで、自分自身のパフォーマンスを1番良く出そうと追求していく必要があると思います。

・パリ五輪への思い、高橋選手についてのオリンピックとは

自分としては、チームの軸としてプレイしていく選手になるべきだと思います。今、石川選手や西田（有志）選手がいる中で、もう1人、自分自身が最後の1点だったり、大事な場面で頼れる存在、頼られる選手になっていくことがチームとしても必要です。1番近くの目標は、パリオリンピックでのメダル獲得です。それに加えて、自分としてはバレーボールを夢のあるスポーツに変えていきたい。バレーボールをやりたい子どもたちや、バレーボールを好きになる人たちが増えることが、自分に対しても良いプレッシャーになることは間違いありません。1番は自分のためですが、バレーボールを盛り上げていくことも重要です。その2つを背負ってやっていきたいです。

※この記事は2024年3月4日にインタビューした内容です。

<おもな戦績>

2001年9月2日生まれ 京都府出身
2019年 8月：インターハイ 3位
2019年 10月：茨城ゆめ国体 京都府選抜チーム優勝
2020年 1月：春高バレー優勝、最優秀選手に選ばれた
2020年 2月：日本代表初選出
2020年 4月：日本体育大学に進学
2020年 12月：全日本インカレ 準優勝
2021年 8月：東京オリンピック ベスト8
2021年 9月：バレーボール男子アジア選手権 2位
2021年 10月：秋季関東大学男子1部バレーボールリーグ戦 優勝
2021年 12月：イタリア・セリエAの
パッラヴォーロ・パドヴァに期限付き入団
2023年 6月：イタリア・セリエAの
ヴェロ・バレー・モンツァと契約
2023年 7月：ネーションズリーグ 3位
2023年 10月：ワールドカップバレーボール男子大会 2位
2023年 11月：anan AWARD 2023 アスリート部門を受賞

夢を実現！教育現場のスタートラインに立った先輩たち

夢に向かって努力を続け、教員採用試験に合格した先輩たち。日体大でのさまざまな経験が自信につながるはずです。
先輩のメッセージを励みに、教員への一步を踏み出しましょう。

【令和5年度 教員採用試験合格者メッセージ】

前川 葵 (まえがわ あおい)

体育学部 体育学科
埼玉県立越谷南高等学校出身



合格先
埼玉県(特別支援学校)

子どもの成長を第一に考え 多様な児童・生徒に対応できる教員に

日体大で学んでよかったこと：保健体育教員としての授業と特別支援教育について知的、肢体不自由、病弱の授業です。これらは教員となるための基礎としての知識や実践力を身につける授業となりました。そのおかげで指導力も高めることができたと思います。

どんな教員になりたいか：子どもたちの成長を第一に考え適切な支援、指導を実践する教員になりたいです。昨今はインクルーシブ教育の重要性が高いです。そのため通常の学校にも特別な支援が必要な子どもたちが多くいて考えています。そのような子どもたちにも支援、指導ができるような教員となれるようにこれからも学び続けたいと思います。

先輩へのメッセージ：日体大では素晴らしい授業が多く、それらを着実に受講していくことが重要です。何よりも目標に向かって努力し続ける姿勢が大切だと思うので頑張ってください。応援しています。

吉田 幹 (よしだ もとき)

体育学部 体育学科
横浜市立戸塚高等学校出身



合格先
横浜市(中学校・高校 保健体育)

愛情と責任感に溢れ 誰からも信頼される教員が目標

日体大で学んでよかったこと：日体教学舎に入り、多くの学生と先生方の教育観に触れることができたことです。教員も三者三様で一人ひとりに価値観があります。自分らしい価値観や教員像を発見するためには多くの考えに触れ、真剣に考える場が必要です。そのすべてが詰まっている日体教学舎で教員としての在り方を学ぶことができたことは良かったと感じています。

どんな教員になりたいか：教育的愛情や責任感に溢れ、誰からも信頼される教員になりたいです。

先輩へのメッセージ：合格までの逆算をして、効果的で有意義な準備ができるように頑張ってください。経験豊富な教員希望者相談ブースの講師が皆さんのことを親身になって応援してくれます。教員を志望する仲間同士と学び合い、高め合い、多くの気づきを得てほしいと思います。あとは「教員になりたい」という気持ちを持ち続けること。きっと教員のあなたを待っている生徒がいるはずです！

越田 結葉 (こしだ ゆいは)

児童スポーツ教育学部 児童スポーツ教育学科
埼玉県立浦和北高等学校出身



合格先
さいたま市(小学校)

一人ひとりに寄り添い 長所を伸ばせる教員になりたい

日体大で学んでよかったこと：3年生から所属するゼミナールの活動を通して、教員を目指す仲間と切磋琢磨しながら学び合えることです。教職への情熱を持ち、目標が同じ仲間と学べたことは、自分自身の成長につながりました。また、実技の授業の専門性の高さはもちろん、スポーツ、体育、教育をさまざまな角度からクローズアップし、理論的に各教科の専門知識を持った先生方のもとで学ぶことができたところです。

どんな教員になりたいか：子どもたち一人ひとりに寄り添い、長所を伸ばせる教員になりたいです。そのためにクラスの子どもたち一人も欠けることのない、あたたかいクラスを目指し、現状に満足せず常に学び続ける教員になります。

先輩へのメッセージ：とにかく学生生活をがむしゃらに楽しんでください。何になるにも自分次第です。悔いのない学生生活を送ってください。同じ日体大の仲間として、皆さんのご活躍を応援しています。

令和5年度 教員採用試験現役合格者 118名

【北海道・札幌市】

《小学校》 1名
《高校》 1名

【山形県】

《特別支援》 1名

【福島県】

《中学校》 1名

【茨城県】

《小学校》 2名
《中学校》 2名

【栃木県】

《小学校》 1名
《特別支援》 1名

【埼玉県】

《小学校》 1名
《高校》 3名

《特別支援》 3名

【埼玉県・さいたま市】

《小学校》 1名

【千葉県・千葉市】

《小学校》 4名
《中学校・高校》 2名

【東京都】

《小学校》 19名
《中学校・高校》 1名
《小学校・中学校・高校》 14名
《特別支援》 6名

【神奈川県】

《小学校》 7名
《高校》 3名

【神奈川県・横浜市】

《小学校》 5名
《中学校》 2名

《中学校・高校》 3名

《特別支援》 1名

【神奈川県・川崎市】

《小学校》 2名
《特別支援》 1名

【神奈川県・相模原市】

《小学校》 1名

【富山県】

《中学校・高校》 1名

【山梨県】

《小学校》 1名
《中学校》 1名

【長野県】

《高校》 1名

【静岡県】

《中学校》 1名

【兵庫県・神戸市】

《小学校》 1名

【島根県】

《小学校》 1名

【広島県・広島市】

《中学校》 1名

【香川県】

《小学校》 1名

【愛媛県】

《小学校》 1名

【福岡県】

《小学校》 1名
《特別支援》 1名

【福岡県・福岡市】

《小学校》 1名

【私立】

《幼稚園》 4名
《小学校》 1名
《中学校・高校》 5名
《高校》 5名
《養護》 1名

※2024年2月末時点で教職センターに報告された情報に基づき作成しています。

同窓会は学生生活・就職活動を支援しています

～日本体育大学同窓会 Nittai Alumni 紹介～

日体大生の心強い応援団が日本体育大学同窓会です。
社会で活躍する諸先輩と積極的に交流し、支援を仰ぎ、夢を実現してください。
そして、卒業後は同窓会の一員として、バトンを後輩へとつなげていきましょう。

「日體未来応援団」として日本の未来を創る日体大を全力で応援します。

日本体育大学同窓会 会長 高田 佳朗

日本体育大学同窓会は、全国47都道府県に50支部（北海道4支部）を有し、日体大ならではの強固な人脈・ネットワークを活かしながら、会員相互の親睦・研鑽を図るとともに、在学生への支援を行っているところです。

同窓会は、学生の皆さんの身近な相談者として、学生生活の支援と就職活動のお手伝いを行っています。特に就職活動については、学生の皆さんの多くが民間企業へ就職している現在、教育実習や教員採用試験対策だけではなく、民間企業への就職支援も実施しています。

全国には600名を超える同窓の代表取締役がおります。スポーツ関係だけでなく多種多様な企業の代表取締役として活躍している同窓生が、皆さんの就職活動を支援してくれます。そして、出身地においても同窓生が地元への就職をサポートしてくれています。

また、学生生活についてもいつでも相談ができる体制もありますので、どうぞ気軽に身近にいる同窓生に相談してみてください。

わが母校日本体育大学は、身体に纏わる文化と科学の総合大学として日々進化を続けています。皆さんの活動を支えることで、母校の発展に寄与しております。

多様化する現在、社会で求められている人材は、「自ら考え、計画・行動し、事を成し遂げるために常に努力し続けることのできる人」だと思います。日体生には、それが備わっています。これからの社会の中心として活躍していくのは、皆さんののです。

そうした未来の日本のために、我々同窓会は皆さんを全力で応援していきます。

頑張れ!日体大!がんばれ!!日体生!!

令和5・6・7年度 役員一覧

役 職	氏 名	卒業年
会 長	高田 佳朗	昭57(1982)
	吉田 和子	昭55(1980)
副会長	八木沢 誠	昭59(1984)
	中村 欽哉	昭62(1987)
	米山 英津子	昭55(1980)
	田中 俊一郎	昭55(1980)
	遠藤 健三	昭47(1972)
	岡崎 宏一	昭59(1984)
	町田 暁世	昭48(1973)
	橋爪 建治	昭54(1979)
	光橋 扶	昭42(1967)
	長友 寧雄	昭49(1974)
監 事	山田 五郎	昭57(1982)
	瀧口 和伸	平2(1990)
幹事長	巴 伸一	昭54(1979)
幹 事	佐野 昌行	平17(院)(2005)
	福井 元	平11(1999)
	堀井 誠二	昭62(1987)
	田口 久美子	昭62(1987)
	亀山 有希	平7(1995)
	波多腰 克晃	平15(2003)
	佐野 朗子	昭57(1982)
	岩切 大作	平8(1996)
事務局局長	大海 二郎	平4(1992)

ブロック編成



北海道ブロック

北海道ブロック 道央 道南 道東 道北

東北ブロック

東北ブロック 青森 秋田 岩手 山形 宮城 福島

北信越・東海ブロック

関東ブロック 茨城 栃木 群馬 埼玉 千葉 東京 神奈川 山梨

中国・四国ブロック

関東ブロック

北信越・東海ブロック 新潟 富山 石川 福井 長野 静岡 愛知 岐阜 三重

近畿ブロック

近畿ブロック 滋賀 京都 大阪 奈良 和歌山 兵庫

九州ブロック

中国・四国ブロック 鳥取 島根 岡山 広島 山口 香川 徳島 愛媛 高知

九州ブロック 福岡 佐賀 長崎 大分 熊本 宮崎 鹿児島 沖縄

■令和6年度 入学試験結果

■日本体育大学

学部	学科	区分	志願者数	志願者数(女子)	受験者数	受験者数(女子)	最終合格者数	合格者数(女子)	競争率
体育学部	体育学科	総合型選抜	630	192	610	187	382	145	1.60
		推薦入試	433	130	433	130	431	130	1.00
		一般入試	740	186	725	183	118	39	6.14
		その他	11	1	11	1	3	1	3.67
		合計	1,814	509	1,779	501	934	315	1.90
	健康学科	総合型選抜	179	98	177	97	138	85	1.28
		推薦入試	61	34	60	34	58	34	1.03
		一般入試	125	64	123	63	29	17	4.24
		その他	1	0	1	0	1	0	1.00
		合計	366	196	361	194	226	136	1.60
	合計		2,180	705	2,140	695	1,160	451	1.84
スポーツ文化学部	武道教育	総合型選抜	30	8	30	8	30	8	1.00
		推薦入試	65	14	65	14	64	14	1.02
		一般入試	4	0	4	0	4	0	1.00
		合計	99	22	99	22	98	22	1.01
	スポーツ国際学科	総合型選抜	25	10	24	10	24	10	1.00
		推薦入試	42	17	42	17	42	17	1.00
		一般入試	115	39	114	39	114	39	1.00
		その他	2	0	1	0	1	0	1.00
		合計	184	66	181	66	181	66	1.00
	合計		283	88	280	88	279	88	1.00
スポーツマネジメント学部	マネジメント学科	総合型選抜	134	39	132	38	108	31	1.22
		推薦入試	150	30	150	30	143	29	1.05
		一般入試	231	78	226	77	40	19	5.65
		その他	3	1	1	0	1	0	1.00
		合計	518	148	509	145	292	79	1.74
	マネジメント学科	総合型選抜	89	22	86	21	65	17	1.32
		推薦入試	56	19	56	19	48	19	1.17
		一般入試	109	32	109	32	27	13	4.04
		合計	254	73	251	72	140	49	1.79
		合計	772	221	760	217	432	128	1.76
児童スポーツ教育学部	児童スポーツコース	総合型選抜	88	39	85	37	77	36	1.10
		推薦入試	55	33	55	33	50	33	1.10
		一般入試	54	24	51	24	23	11	2.22
		合計	197	96	191	94	150	80	1.27
	保育教育コース	総合型選抜	36	34	36	34	29	27	1.24
		推薦入試	17	15	17	15	17	15	1.00
		一般入試	3	2	3	2	3	2	1.00
		合計	56	51	56	51	49	44	1.14
	合計		253	147	247	145	199	124	1.24
保健医療学部	整復医療学科	総合型選抜	129	54	127	52	64	34	1.98
		推薦入試	37	12	37	12	28	10	1.32
		一般入試	47	22	47	22	7	3	6.71
		合計	213	88	211	86	99	47	2.13
	救急医療学科	総合型選抜	82	17	82	17	71	15	1.15
		推薦入試	24	6	24	6	16	6	1.50
		一般入試	28	7	27	7	7	3	3.86
		合計	134	30	133	30	94	24	1.41
	合計		347	118	344	116	193	71	1.78
合計			3,835	1,279	3,771	1,261	2,263	862	1.67

	学位 プログラム	コース	トップアスリートコース 特別推薦入試		一般選抜		社会人選抜		外国人選抜		スポーツ選抜		志願者	合格者
			志願者	合格者	志願者	合格者	志願者	合格者	志願者	合格者	志願者	合格者	志願者	合格者
特別推薦入試		体育科学学位プログラム	0	0	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0
		体育実践学位プログラム	0	0	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0
		コーチング科学学位プログラム	0	0	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0
		コーチング実践科学学位プログラム	0	0	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0
		【博士前期課程】トップアスリート・コーチ特別推薦入試(合計)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
I 期試験	体育科学学位 プログラム	体育スポーツ文化社会コース	—	—	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0
		スポーツマネジメントコース	—	—	0	0	0	0	2	0	0	0	2	0
		トレーニング科学コース	—	—	8	5	3	2	0	0	0	0	11	7
		健康スポーツ医科学コース	—	—	8	5	1	1	0	0	1	0	10	6
		身体教育・健康教育コース	—	—	2	1	0	0	1	0	—	—	3	1
	体育科学学位プログラム(合計)		—	—	19	11	4	3	3	0	1	0	27	14
	体育実践学 学位プログラム	スポーツマネジメントコース	—	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		身体教育・健康教育コース	—	—	0	0	0	0	0	0	—	—	0	0
	体育実践科学学位プログラム(合計)		—	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	【博士前期課程 合計】		—	—	19	11	4	3	3	0	1	0	27	14
①体育科学学位プログラム		—	—	5	3	3	2	1	0	5	3	14	8	
②コーチング科学学位プログラム		—	—	3	0	1	1	0	0	2	1	6	2	
【博士前期課程 合計】		—	—	8	3	4	3	1	0	7	4	20	10	
①コーチング科学学位プログラム		—	—	8	3	4	3	1	0	7	4	20	10	
②コーチング実践科学学位プログラム		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
【博士前期課程 I 期合計】			—	—	27	14	8	6	4	0	8	4	47	24
II 期試験	体育科学学位 プログラム	体育スポーツ文化社会コース	—	—	0	0	1	0	4	1	1	1	6	2
		スポーツマネジメントコース	—	—	0	0	0	0	2	0	0	0	2	0
		トレーニング科学コース	—	—	3	2	1	1	0	0	0	0	4	3
		健康スポーツ医科学コース	—	—	2	1	1	1	0	0	1	1	4	3
		身体教育・健康教育コース	—	—	0	0	0	0	1	1	—	—	0	1
	体育科学学位プログラム(合計)		—	—	5	3	3	2	7	2	2	2	17	9
	体育実践学 学位プログラム	スポーツマネジメントコース	—	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		身体教育・健康教育コース	—	—	0	0	0	0	0	0	—	—	0	0
	体育実践科学学位プログラム(合計)		—	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	【博士前期課程 合計】		—	—	5	3	3	2	7	2	2	2	17	9
①体育科学学位プログラム		—	—	4	2	2	1	1	0	2	2	9	5	
②コーチング科学学位プログラム		—	—	1	0	0	0	0	0	1	1	2	1	
【博士前期課程 合計】		—	—	5	2	2	1	1	0	3	3	11	6	
①コーチング科学学位プログラム		—	—	5	2	2	1	1	0	3	3	11	6	
②コーチング実践科学学位プログラム		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
【博士前期課程 II 期合計】			—	—	10	5	5	3	8	2	5	5	28	15
I 期 + II 期			トップアスリートコース 特別推薦入試		一般選抜		社会人選抜		外国人選抜		スポーツ選抜		志願者	合格者
博士前期課程 合計			志願者	合格者	志願者	合格者	志願者	合格者	志願者	合格者	志願者	合格者	合計	合計
			—	—	37	19	13	9	12	2	13	9	75	39

【博士後期課程】 募集人員 I 期 + II 期合わせて

①体育科学学位プログラム 6名

②コーチング科学学位プログラム 3名

I 期試験	学位 プログラム	コース			一般選抜	社会人選抜	外国人選抜	内部進学選抜	志願者	合格者				
					志願者	合格者	志願者	合格者	志願者	合格者	志願者	合格者	合計	
					志願者	合格者	志願者	合格者	志願者	合格者	志願者	合格者	合計	
	体育科学学位 プログラム	体育スポーツ文化社会学コース	1	1	1	1	0	0	—	—	2	2		
		トレーニング科学コース	0	0	1	1	0	0	—	—	1	1		
		健康スポーツ医科学コース	1	1	0	0	0	0	—	—	1	1		
		身体教育・健康教育コース	1	1	2	2	0	0	—	—	3	3		
		体育科学学位プログラム(合計)	3	3	4	4	0	0	—	—	7	7		
	コーチング科学学位プログラム	0	0	0	0	0	0	—	—	0	0			
【博士後期課程 I 期合計】			3	3	4	4	0	0	—	—	7	7		
II 期試験	体育科学学位 プログラム	体育スポーツ文化社会学コース	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1		
		トレーニング科学コース	0	0	0	0	2	2	2	2	4	4		
		健康スポーツ医科学コース	1	1	1	1	0	0	1	1	3	3		
		身体教育・健康教育コース	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
		体育科学学位プログラム(合計)	1	1	1	1	2	2	4	4	8	8		
	コーチング科学学位プログラム	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1			
【博士後期課程 II 期合計】			1	1	1	1	2	2	5	5	9	9		
I 期 + II 期 博士後期課程 合計					一般選抜	社会人選抜	外国人選抜	スポーツ選抜	志願者	合格者				
					志願者	合格者	志願者	合格者	志願者	合格者	合計	合計		
					4	4	5	5	2	2	5	5	16	16

■日本体育大学大学院 教育学研究科

博士前期課程(募集人員: 20名/I 期・II 期合わせて)

教科		公募制推薦入試		一般選抜		社会人選抜		キャリア選抜		志願者	合格者	
		志願者	合格者	志願者	合格者	志願者	合格者	志願者	合格者	合計	合計	
推薦入試	公募制	国語科教育	0	0	—	—	—	—	—	—	0	0
	社会科教育	0	0	—	—	—	—	—	—	0	0	
	算数科教育	0	0	—	—	—	—	—	—	0	0	
	理科教育	0	0	—	—	—	—	—	—	0	0	
	体育科教育	7	7	—	—	—	—	—	—	7	7	
	公募制推薦入試 合計	7	7	—	—	—	—	—	—	7	7	
Ⅰ期試験	国語科教育	—	—	0	0	1	1	0	0	1	1	
	社会科教育	—	—	0	0	0	0	0	0	0	0	
	算数科教育	—	—	0	0	0	0	0	0	0	0	
	理科教育	—	—	0	0	0	0	0	0	0	0	
	体育科教育	—	—	0	0	1	1	0	0	1	1	
Ⅰ期試験 合計	—	—	0	0	2	2	0	0	2	2		
Ⅱ期試験	国語科教育	—	—	0	0	0	0	0	0	0	0	
	社会科教育	—	—	0	0	0	0	0	0	0	0	
	算数科教育	—	—	0	0	0	0	0	0	0	0	
	理科教育	—	—	0	0	0	0	0	0	0	0	
	体育科教育	—	—	0	0	0	0	0	0	0	0	
Ⅱ期試験 合計	—	—	0	0	0	0	0	0	0	0		
Ⅰ期＋Ⅱ期 博士前期課程 合計		公募制推薦入試	一般選抜	社会人選抜		キャリア選抜		志願者	合格者	合計	合計	
		志願者	合格者	志願者	合格者	志願者	合格者	志願者	合格者	合計	合計	
		7	7	0	0	2	2	0	0	9	9	

令和6年度 日本体育大学 役職者一覧

【学長・副学長】	
学長	石井 隆憲
(企画・管理・運営担当)	
副学長	水野 増彦
(教学・学生生活担当)	
副学長	八木沢 誠

【学術研究支援統括】	
学術研究支援統括	中里 浩一 (兼)

【学長室＝内部質保証機関】	
室長	近藤 智靖 (兼)
室長補佐	松浪 登久馬

【IR 室】	
室長	大石 健二

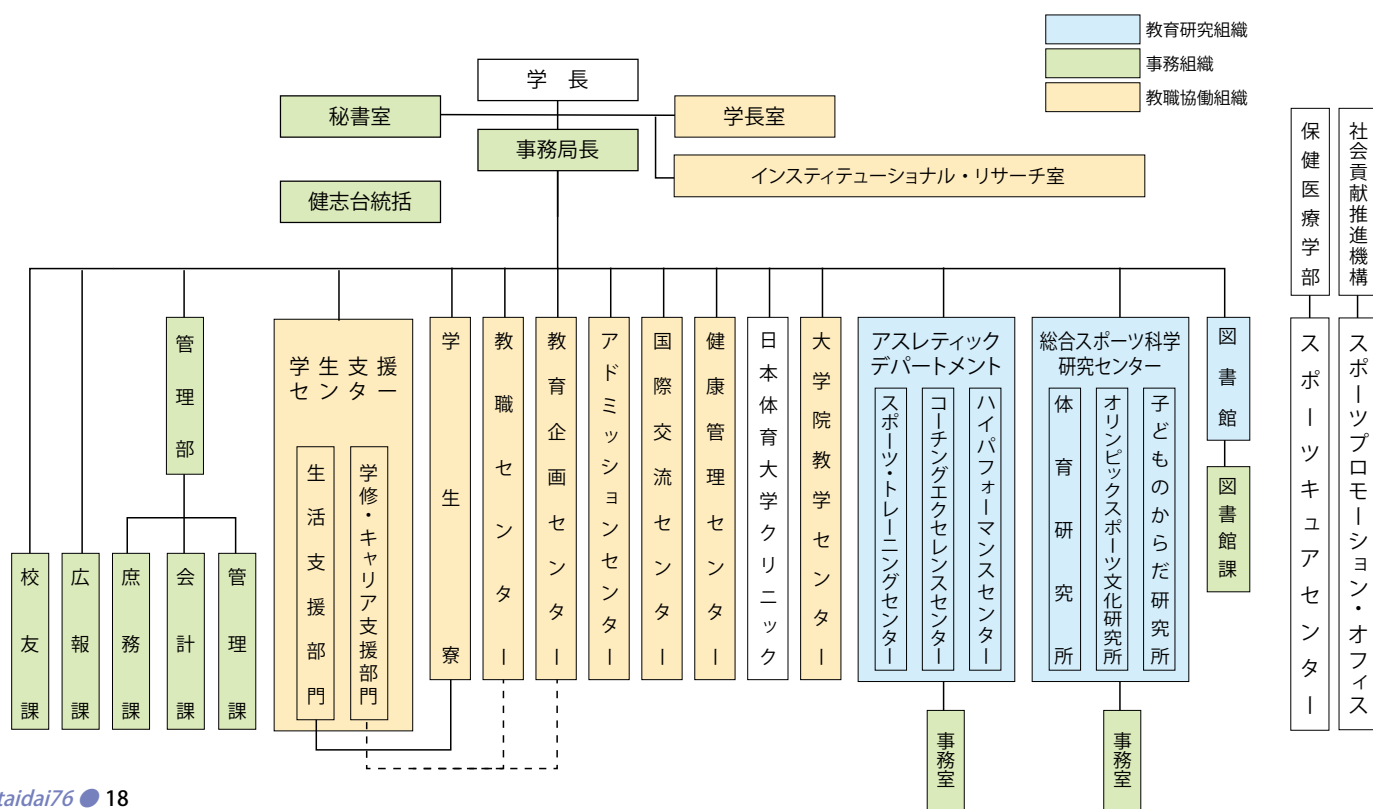
【教学組織】	
研究科長代表	関根 正美 (兼)
体育学研究科長	関根 正美
体育科学研究科長	関根 正美 (兼)
教育学研究科長	近藤 智靖
保健医療学研究科長	横田 裕行
体育学部長	野井 真吾
体育学科長	大本 洋嗣
健康学科長	横山 順一
体育学部長補佐	小林 正利 (兼)
体育学部長補佐	梶 規子
スポーツ文化学部長	岡出 美則
武道教育学科長	山本 洋祐
スポーツ国際学科長	山口 和之
スポーツマネジメント学部長	齊藤 隆志
スポーツマネジメント学科長	青柳 徹
スポーツライフマネジメント学科長	小泉 和史
児童スポーツ教育学部長	須永 美歌子
児童スポーツ教育学科長	中島 龍一
児童スポーツ教育コース主任	稲田 結美
幼児教育保育コース主任	齊藤 多江子
保健医療学部長	中里 浩一
整復医療学科長	久保山 和彦
救急医療学科長	小川 理郎
保健医療学部長補佐	木村 直人 (兼)

【附置機関等】	
図書館長	木村 直人
学生支援センター長	北島 洋美
副センター長	森井 大治
学修・キャリア支援部門長	森井 大治 (兼)
副センター長	米地 徹
生活支援部門長	米地 徹 (兼)
教職センター長	佐藤 浩
副センター長	大塚 幹太
アドミッションセンター長	三宅 良輔
副センター長	竹腰 誠
大学院教学センター長	関根 正美 (兼)
教育企画センター長	小林 正利
副センター長	大石 健二 (兼)
総合スポーツ科学研究センター長	中里 浩一 (兼)
体育研究所長	中里 浩一 (兼)
オリンピックスポーツ文化研究所	依田 充代
子どものからだ研究所	野井 真吾 (兼)
アスレティックデパートメント長	西山 哲成
アスレティックデパートメント長補佐	横田 匡俊
ハイパフォーマンスセンター長	杉田 正明
コーチングエクセレンスセンター長	伊藤 雅充
スポーツ・トレーニングセンター長	黄 仁官
国際交流センター長	金田 英子
健康管理センター長	平沼 憲治
日本体育大学クリニック院長	横田 裕行 (兼)
寮監長	古澤 伸晃
(保健医療学部)	
スポーツキュアセンター長	伊藤 譲

令和6年4月1日現在

令和6年4月1日現在

事務組織



本学における体育・スポーツを通じた国際協力： スポーツ国際展開基盤形成事業

2024年2月19日から22日にかけて、本学が受諾しているスポーツ庁委託研究スポーツ国際展開基盤形成事業のひとつとして、カンボジア・プノンペン市にてワークショップを実施しました。本学からはプロジェクトコーディネーターの宍戸雄特別研究員がワークショップの開催運営に携わり、プロジェクトリーダーの岡出美則スポーツ文化学部長とプロジェクトメンバーの寺岡英晋助教が専門家アドバイザーとして参加しました。本ワークショップにはASEAN10カ国から2名ずつの政府機関並びに省庁担当者もしくは大学関係者がカウンターパートとして参加し、各国の政策設定に基づく体育教師教育と障がい者スポーツの促進に関する事業計画の共有と見直しが行われました。参加者同士の積極的な交流があり、本学としてもASEAN諸国における体育・スポーツに関わる政府機関及び大学関係者との連携・協力体制が強化されました。



児童スポーツ教育学部 10周年記念式典を行いました！

2024年2月8日（木）、東京・世田谷キャンパスにて、児童スポーツ教育学部10周年記念式典を行いました。

理事長、学長にご挨拶をいただき、須永美歌子児童スポーツ教育学部長が学部のこれまでの歩みと未来構想について、お話されました。そのほか、パネルディスカッションとして、神奈川県立スポーツセンターの所長の大塚和弘氏と國學院大学教授の鈴木みゆき氏にご登壇いただき、先生方の取り組みや児童スポーツ教育学部に期待することなどをお話いただきました。

また、卒業生にも登壇いただき、学生時代の学びや経験談などを、在学生に向けてお話いただきました。

終わりに、初代学部長でいらした久保健名誉教授にご挨拶いただき、閉会となりました。



日本体育大学クリニックのご案内

日本体育大学クリニック

■診療時間・診療科

受付開始	14:30	月	火	水	木	金	土・日・祝
15:00	整形外科（一般・スポーツ整形外科）	○		○	○	○	休診
15:00	外科（一般外科）		○				
18:00	内科（一般・呼吸器内科・スポーツ内科）		○				

■診療スタッフ

院長 横田 裕行
医師 平沼 憲治（整形外科・外科）
橋本 俊彦（整形外科）
林 英俊（整形外科）
橋本 典生（内科）
川上 康彦（内科）

※上記休業日の他、以下の休業あり
1. 夏季休業（8月中旬に1週間）
2. 開学記念日（9/20）
3. 冬季休業（12/28～1/5）
4. その他本学の諸行事等に伴う臨時休業

2018年12月に開院した日本体育大学クリニックでは、スポーツ選手の怪我の治療、予防・アドバイスはもちろん、本学学生・関係者をはじめ、地域住民の方々も対象に、スポーツに起因しない怪我や病気の診断・治療も行っています。

【所在地】 〒158-8508 東京都世田谷区深沢 7-1-1
日本体育大学東京・世田谷キャンパス教育研究棟G階
TEL：03-5706-0929 FAX：03-5706-0938

